
ルイス・ジョセフ・ラファエル・コラン氏十月二十一日を以て逝く、氏は現佛國畫壇の巨星にしてアカデミシヤンの重鎮たり、我國洋畫界の泰斗黒田清輝、岡田三郎助、和田英作、山下新太郎の諸家は皆その門に出で、親しく氏の薫陶を受けたる人々なり、本誌は今この記念すべき巨星の訃を聞き、上記の諸家に執筆を乞ふて哀悼の意を表明す。

逝けるコラン先生

黒田清輝

コラン先生が逝去されたといふ。我々はまだ直接の報告には接しないが、或る米國の雜誌の傳へるところによると、先生去月二十一日を以て逝かれた相である。我々は突然この報に接して一方ならず驚いた。何故といふに、先生はまだそれ程のお年でなかつたからである。丁度此の十五日は山本芳翠の十年忌で古い友達が集つて會食したのだが、芳翠はコラン先生と同年で五十七の時に死んだから、今健在ならば六十七歳になるなど、いふ話しさへ出た程であつた。先生は千八百五十年の生れである。

コラン先生に示導を受けた日本人中では、私と久米君とが早い方である。我々よりも先に先生に就いた日本人には、藤雅三と云ふ人がある。此人は工部美術學校の出身で、日本でも油繪を描き、久米君は洋行前に此人に就いて學んだのであつた。當時私は別に畫を學ぼうと云ふ考へもなく、たゞ畫が好きだと云ふに止つてゐたが、畫を好むところから藤氏と交り、又先生を知るに至つた。そして最初は、藤氏の爲に佛蘭西語の通辨をするべく先生

の門に出入した。併しその中に久米君が畫を學ぶ爲に巴里に来て先生に入門し、それと同時に、私も亦法律を學ぶ旁ら先生の門に入るこゝとなつた。で、三人が同時に先生に就て稽古をして居たが、入門の順から云へば藤氏と我々の間には一年程の差があつた。

私が愈々先生に就て畫を學ぶこゝとなつたのは、千八百八十六年、即ち明治十九年のことであつた。が、前にも述べた如く私は一方に法律の研究をもしてゐたので、本當の稽古に懸ることが出来ず、翌年の十月まではルーヴル美術館へ行つて希臘の彫刻物を寫したり法律大學校の科外にコラン先生の研究所へ通つて居たが、それから漸く本當の稽古に入り、明治二十六年の夏に至るまで先生に就て勉強した。其後は明治三十三年に彼地へ行つて七八ヶ月巴里に滞在したので、其間屢々先生を訪ひ、又其滞在中に描いたものに就いて先生の批評を乞ふたりした。初めて私が先生に就いたのは二十二歳の頃であつて、私は初めから先生に就いて學んだのである、又先生も日本人を手につけられたのは初めてのことだつたので、我々は他の多くの佛蘭西人や米國人の同門に比べると、特別に親切な取扱ひを受けてゐた。或る點から云ふと家庭の人のやうな取扱ひを受けたのであつた。即ち別荘へ同伴されたり、食事を共にしたり、又は先生がモデルを使つて製作して居られる時でも、我々は關はず先生の畫室に留つて色々畫の話しを聞くことが出来たり、又は先生の畫室を訪ふものは、當り前なら用談なり批評を乞ふなりして直ちに歸るのだが、我々は用が濟んだ後も半日位は其所で過すことを許されてゐたりした。さういふ風な特別な待遇を受けてゐた。斯る間に得た我々の利益は實に大なるものであつた。我々は單に先生から繪畫の上の教授を受けたのみではなく、何かにつけて先生が話されることを聽いて、自分の思想を固める上に大なる影響を受けたのであつた。

先生は凡ゆるものに關して非常に廣い大きな考へを持つて居られた。そして而も之れは美術家に極めて應はしいものであつた。教育といふことに就ては、先生はその師カパネルのやり方を採られたやうである。先生は授業上常にカパネルを賞讃された。カパネルは有名な大家であるが、門生を指導すると云ふ點から見て特に彼には學ぶべきものが多い。それは自分の作を眞似ねる人を作らなかつた點である、カパネルの門下には多數の名家が出たが、彼等は皆なそれ〳〵特長を持つてゐて、師の作風に追隨したものはない。コラン先生は此點でカパネルを賞讃された丈けに、我々を指導される爲例などを引かれる場合でも、自然の見方或は製作の精神のみを語られて決して作風を彼れ是れ云はれるやうなことはなかつた。そうして主に美術の正統といふことを確かめて話されたのであつた。或る時、古畫を能く研究せよと云はれたのでルーヴル美術館へ畫を見に行つたが、餘り澤山なのでその見方に迷ひ、この事を先生に話すと、先生は一日私の爲に一緒に行つてくれられて、色々の話しをされた。其時、先生は各國の繪の中から色々のものを擧げて譽められるので、其當時は私はその意味を充分解し得なかつたが後に考へると、これ等のものには皆な一貫した大事な思想があり、又繪畫の正統たるべき或るものがあるから色々の特長も見出されて、先生はつまりこれを擧げて譽められたのであつた。これなども如何に先生が徹底した高遠な思想を持つて居られたかを證するに足るのである。其後私は日本に歸つて美術學校に教へるやうになつてからは、偏にコラン先生の教に基いて後進を導くやうにと努めて居る。

一方から云ふと、先生は全く佛蘭西人らしい佛蘭西人で、理想的佛蘭西人である。即ち愛國心が盛んで、親切で、優美で、そして美術の方面のみではなく、總てのものに對して至て公平無私で寛大な哲理を持つて居られた人

であつた。或る時、先生は裁判の陪審官となられたことがあつたが、その時の犯人は殺人罪を犯した者で、検事の論告は峻烈を極め、その犯人に對して絶対に死刑を要求した。併し先生は後に思ひ出したやうに私に向つて、人を殺すなど、云ふことは固よりよろしくないことであるが、殺した人を又無理やりに殺さうとするのも不思議な心理ではないかと語られた。先生は容貌魁偉、腕力強健で、一見甚だ怖ろし相な人であるが、其風采に似はず、人に對しては非常に優しくあつた。又先生のやうな地位にある佛蘭西の紳士は、皆な貴婦人などに對する應對の仕方は極めて巧妙なものであるが、先生は甚だそれがうまくなかつた。先生は花卉を愛され、収入の殆んど全部を擧げて花園に花を培養された。住居は極めて質素なものであつたが、美事な温室などの設けがあつた。

先生が美術家になられたのには、先天的に備はれるものがあつたのである。即ち先生の父は巴里の圖書館の管理をして居られた人であつたが、矢張り畫を描かれ、先生のところにも此人が若い時分に描かれた二三の作品が残つてゐた。なか／＼うまいものであつた。先生は十七八歳にして既に立派に繪を描かれて、二十三歳の頃には既に大家の域に達せられてゐた。十七八歳の時に描かれた自畫像などは實に美事なものである。先生が自然を愛されたのは花にのみ止らず、路傍の草木に對しても非常な興味を持つて居られた。よく散歩などを一緒にする時、到る處に立ち止つては草木の色調などに就ての感想を語られた。前にも述べた通り、我々は先生から繪畫の技術を學んだのみではなく、人生觀などに就て注入されたものが甚だ少なくない。自然を愛することの如きも亦先生から受けた大なる感化であらう。